



第26回 稲門建築会 特別功労賞(奨励) 栗生 はるか (苗2004/院2007) 一般社団法人せんととうまち代表理事、文京建築会ユース代表

【功績と推薦理由：渡辺甚吉邸保存に至るこれまでの文化的資源の保存・再生・発信活動】

私は栗生はるか君(苗2004/院2007)を第26回稲門建築会特別功労賞に推薦いたします。栗生君は建築を人や社会が活動する総合的な場所として捉え、設計活動のみならず、その場所を生み出し保つ方法に、独自の柔軟さや斬新なデザイン提案を行ってきました。特に今回の功労賞推薦のきっかけとなったのは、栗生君の報告と提起から始まった旧渡辺甚吉邸(1934年竣工)の移築保存ならびに再生事業です。同邸は昭和戦前期の住宅作品の成熟を最もよくあらわす傑作としてつとに知られていました。のみならず同邸には3名の著名な同窓である遠藤健三(友1917)、山本拙朗(苗1917・あめりか屋技師)、そして今和次郎(教1911・考現学・早稲田大学教授)が深く関与していました。とりわけ、今和次郎による細部まで手の入った本格的なデザイン作品はこの一作のみであり、同邸によって今和次郎の類まれな装飾力が証明されています。栗生君の稲門建築会会合での報告から始まり、その後、建築史を専らとする学会、早稲田建築学科教室にも賛同を得て、要望書を発表し、保存への検討が続きました。この活動は最終的に前田建設工業株式会社の英断による移築再生事業に結実し、現在同邸は生活文化を展示する施設として同工業の研究所内に開館されるに至りました。その他にも、地域の建築である銭湯施設の再活性化に国際的評価を獲得したり(「滝野川稲荷湯の修復・再生プロジェクト」2018~)、本郷界隈に残る三館の旅館を再活性化させたりと、文字通り地域から発想し、それを澁刺とした新しい文脈へ注いでいく力量には圧倒されます。このような活動は、都市や建築ストックが増え続けさらに人口が減少する21世紀の日本において多かれ少なかれ、建築関係者が直面し、自ら解決策を見出していかなければならない大切なテーマを大いに含んでいます。とりわけ栗生君の活動は、その成果の結実が他に一步抜き出しています。受賞によって栗生君の活動を顕彰し、さらに君の活動が活発化することを強く願い、ここに心から推薦いたします。 推薦者 早稲田大学建築学科教授 中谷 礼二 (苗1987)

【学歴】

2004年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
2005-06年 ヴェネツィア建築大学都市計画学科留学
2007年 早稲田大学大学院建築学専攻修士課程修了(古谷誠章研究室)

【職歴】

2008-12年 ㈱NHKアート勤務 文化事業開発部ディレクター
2012-15年 横浜国立大学大学院建築都市スクール"Y-GSA"スタジオ・アシスタント
2016-19年 早稲田大学創造理工学部建築学科非常勤講師
2015-20年 法政大学デザイン工学部建築学科教務助手(2018まで教育技術員)
2020年-現在 一般社団法人せんととうまち設立 代表理事
2021年-現在 慶應大学SFC・法政大学デザイン工学部建築学科非常勤講師
2023年-現在 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科非常勤講師

【その他社会における活動】

2004-08年 早稲田大学稲門建築会事業委員会学生委員
2010-11年 UIA世界建築会議東京大会学術部委員
2012-現在 NPO法人文京建築会文京建築会ユース代表
2016-現在 東京文化資源会議幹事(本郷のキオクの未来プロジェクト座長)
2017-現在 法政大学江戸東京研究センター/エコ地域デザイン研究センター研究員
2018-現在 国際芸術祭東京ビエンナーレ 地域ディレクター

【賞歴・参加プロジェクト】

2007年 第一回ポルトガル建築トリエンナーレ出展参加(メキシコ代表と協働)
2014年 文京区文の都都市「景観づくり活動賞」(文京建築会ユースとして)
2015年 東京建築士会「第一回これからの建築士賞」(同上)
2019年 ワールド・モニュメント財団 WATCH LIST 2020稲荷湯(せんととうまちとして)
2020年 東京ビエンナーレ2020/2021出展参加(BKY+銭湯山車巡回部/栗生はるか・三文字昌也・内海皓平・村田勇気)
2022年 名古屋建築士会北支部建築コンクール「さまよう建築」最優秀賞(同上)

■渡辺甚吉邸保存・再生

2016年、かねてより行っていた歴史的、文化的価値のある建物の記録保存、活用提案の活動の延長上で、解体危機となっていた白金台の旧渡辺甚吉邸と出会った。買取主との度重なる交渉の末、決定されていた数ヶ月後の解体は延期となり、有識者によるサポートチームが発足。解体前記録と移築や部材引き取りの可能性を探ることの承諾を得られた。各所への報告や相談の後、前田建設工業による丁寧な解体、部材保管、最先端の技術力を生かした修復・再生工事により、甚吉邸は同社の研究開発センターのある取手の地に約3年半の歳月を経て見事再生された。



■地域の文化的資源への気づきと再評価：「文京建築会ユース」

東京建築士会、日本建築家協会の文京支部からなるNPO法人「文京建築会」の若手有志団体「文京建築会ユース」の代表として、2012年から活動を牽引。地域の見過ごされがちな魅力を建築的視点から再発見し、その価値を共有するために様々な角度から発信や活用の提案をしている。近年は、銭湯や旅館、喫茶店などの調査、取材を通じた保存・再生などの活動も展開。



■まちの拠点と生態系の再生：「一般社団法人せんととうまち」

全国の銭湯と周辺のまちを支援する中で、滝野川稲荷湯では、国の登録有形文化財とワールド・モニュメント財団への申請をサポート。パリのノートルダム大聖堂などと共に世界の危機的遺産25件に選出された。支援金を元に、銭湯の修繕・耐震化や銭湯に併設している築100年を超える二軒長屋を再生し、地域に開いた湯上り処を整備し運営している。



■歴史を物語る建造物の保存：「本郷のキオクの未来」

かつて120軒にもものぼった本郷の旅館街の賑わいを伝える最後の一軒とも言える老舗旅館「鳳明館」の解体危機に対し地域関係者と共に保存、活用の方向性を提示。熱意ある地元企業に買い取られ、現在もなお貴重な旅館の姿で本郷地域の歴史を物語る場として残り、活用が模索されている。

